

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「さとの雪食品“ずっとおいしい豆腐”、常温で賞味期間120日間」
- 2) 「石川県、食品ロス削減へ事例集」
- 3) 「青山商事、バッグになる“ジャケット” 買物時のマイバッグ需要を見込む」

1) 「さとの雪食品“ずっとおいしい豆腐”、常温で賞味期間120日間」

四国化工機グループのさとの雪食品は5月1日から、常温で賞味期間120日間の「ずっとおいしい豆腐」(税込171円)を全国の食品スーパーなどで販売開始する。国内の量販店で豆腐の常温流通はこれが初めてとなる。常温での販売が可能のため豆腐売場のみならず、冷蔵販売の豆腐では難しかった麻婆豆腐の素などドライ商品、野菜やサラダなどとのクロスMDの提案が可能となる。さとの雪食品担当者は、「和日配売場を中心に提案を行っているが、豆腐売場の枠を超えられる商品だ。新たな使い方を提案していきたい」と、同商品の可能性について話す。

また、120日間保存可能なため、日常使いだけではなく、買い置きやローリングストック(災害に備えて普段から多めに購入し消費した分を買い足していく方法)のほか、キャンプやアウトドアでの調理などでも豆腐が楽しめる。お中元や手土産にも適している。商品特徴を生かした販路の広がりが期待できる商品だ。「食品スーパーのほか、ドラッグストアや生活雑貨店などにも提案を行いたい」(同社担当者)という。さらに、「リリース以降良い反応が返ってきている。9月1日の『防災の日』を見据えた採用も話もある」とする。

「ずっとおいしい豆腐」は、原料は「国産大豆・にがり・水」のみで、四国化工機グループの三事業(機械・包装資材・食品)それぞれが長年培った特殊技術により、おいしさはそのままに常温で長期保存を実現した。無菌充填技術、豆腐の風味を損なう原因の酸素と光をブロックする特殊紙容器を採用し、常温流通のうえで障壁となっていた大豆由来の菌の殺菌条件を導き出し、豆乳の無菌化に成功した。

ただ、豆腐は一般的に賞味期間が長くない商品のイメージが持たれている。商品特徴の理解促進に向けては、「地道に活動していきたい。パッケージには常温保存可能であり、原材料は大豆・にがり・水だけであることを記載するなど商品説明を行っている。今後はニュースリリースやメディア露出を通じて、特殊技術で出来た商品であることを伝えていきたい」と話す。

(2021/04/22 大豆油糧日報)

これまでできなかったことを可能にした、という商品が増えていくことは一消費者として嬉しく思う。フードロス問題が叫ばれる中、消費期限が短い食品の代表でもある豆腐が日持ちするとなれば可能性は広がると思うが、それが裏目に出て消費者側には「美味しいのか?」や「添加物が入っているのでは?」といった疑問を抱かれるかもしれない。良い商品が埋もれてしまわないように売場の工夫でより広く消費者の目に届き、試してもらい、リピートにつながるようアイデアを出せればと思う。

2) 「石川県、食品ロス削減へ事例集」

石川県は食品ロスを削減するため、ホテルや飲食店などで取り組みやすい事例をまとめたパンフレットを作成、県内で配布を始めた。規格外の野菜を使ったドーナツや賞味期限が迫った商品の直売会、朝食のバイキングで食べ残しを防ぐ提供方法など、成功例を8ページの資料にまとめている。2千部を配布予定。

農林水産省は、事業系の食品ロスを2000年度比で、30年度までに半減させることを目指す。石川県は人口1万人あたりの飲食店舗数が全国7位。県は食品ロスの削減に積極的に取り組む店を「美味しい（おいしい）いしかわ食べきり協力店」に認定し、食べ残し削減に力を入れている。

（2021/04/23 日本経済新聞）

小さな取り組みが集まって大きな結果となるのはもちろん期待できるが、市や自治体規模で規格を決め、それに向かって各店舗が「達成必須の目標」として取り組みを続けることもより効率良く結果を出せるのではないだろうか。石川県だけでなく全国的にも、何から手を付けて良いかわからない中小企業や個人店向けにこのような取り組みが広まってほしい。

3) 「青山商事、バッグになる“ジャケット” 買物時のマイバッグ需要を見込む」

青山商事は4月23日、バッグに変わるジャケット「エコバッグジャケット」（税込1万4300円、サイズ：S～LL）を、「洋服の青山」の170店とオンラインストアで発売する。

買い物バッグとしても使えるジャケット。背中に取り付けたファスナー付きポケットから袋状になっている中生地を取り出し、その袋地の中にジャケット自体を収納することでバッグになる。青山商事によると、バッグに変えられるジャケットは業界初という。

素材はポリエステル100%で、高い防シワ性を持ち、バッグからジャケットに戻した時にもシワになりにくい。ジャケットの表地は、はっ水加工を施しており、着用時には雨水を弾く。バッグ形状では、表地がバッグの中生地（裏地）になるため、物を入れた時の水滴も弾くことができる。

ジャケットとしての軽さと動きやすさ、着心地のよさもこだわったとしており、カラーはブラック・カーキで展開する。自宅での洗濯もできる。

同じ生地のパants（税込6490円、サイズ：76cm～88cm）も用意。pantsをそろえることでセットアップスーツとしても使える。pantsは、ベルトループを取り付けない仕様のカジュアルな印象のタイプで、ビジネスカジュアルスタイルで取り入れやすいデザインに仕上げた。

青山商事では、買い物時にマイバッグを持参する消費者が増えていることから、仕事帰りのちょっとした買い物に便利に使えるアイテムとして提案していく。

（2021/04/26 流通ニュース）

機能としては充実しており、物珍しいという点でも注目度されるだろう。エコバッグを持ち歩く習慣のないビジネスマンにも認知が広がりそうだ。ただ、現実的に考えてエコバッグとジャケットを併用してしまうことに抵抗を感じる人はいないだろうか。両方の機能をバランス良く使いこなすには少し手間かもしれない。今後このような商品が増える傾向にあると思うが、「エコバッグ」を量産しその分廃棄も増えるのは本末転倒のような気がする。これからの動きにも注目したい。